

告辞

文京学院大学、同大学院にご入学の皆さん、誠におめでとうございます。大学を代表いたしまして、お祝いを申し上げるとともに、皆さんを心から歓迎いたします。

ご父母・保護者の皆様にも心よりお慶び申し上げます。

本校は、4学部10学科、4大学院研究科を擁していますが、今年度は、外国語学部・外国語研究科に 257 名、経営学部・経営学研究科に 289 名、人間学部・人間学研究科に 396 名、そして保健医療技術学部・保健医療科学研究科に 343 名の新入生を迎えました。

また、今年度から保健医療技術学部看護学科が新たにスタートしました。看護学科の入学生の皆さんは、第1期生となります。今後の学科の発展の基礎を築いていただく上で大いに期待されるところであります。

さて、私たちの社会は、今、大きな変革のなかにあります。原材料やエネルギーを投入してモノを大量生産・大量販売・大量消費する時代から、知識・感情・経験といった無形のもの重視する社会に移行しつつあります。また、携帯電話やインターネットのような新しい情報技術の発展によって、私たちの生活は大きく変わり、好むと好まざるとにかかわらず、グローバル化の波にさらされつつあります。

このため、グローバル社会の中で通用する人材の育成が急務になっています。大学院の目的は、専門分野の研究に立脚した専門職業人として、社会に貢献する人材を2年間で育成することです。一方大学では、近年、学部教育が大変重視されており、その拡充がもとめられています。大学生に、4年間で身につけてほしい学力を「学士力」と呼び、この「学士力」には、学部の専門を極める知識、教養と同時に、新たなグローバル社会の市民として必要な文化・社会自然・歴史の知識、理解力、コミュニケーション能力、問題解決能力、論理的思考力、自己管理能力、チームワーク、倫理観、社会的責任なども含まれています。

こうした時代の変化を背景として、これからの社会では、組織をバックに活躍するのではなく、皆さん一人ひとりが個人として研鑽を積んで、実力を発揮することが期待されます。そして、グローバルな社会での「自立と共生」が、求められることとなります。

本学は1923年9月に起こりました関東大震災直後の1924年4月に、島田依史子先生が「自立と共生」を建学の精神として開校されました。以後、本学は学生の皆さんが社会で自立し、他者と共生していける人格の形成と知識・技能の習得を目指してきました。

この建学の精神の意義が、今あらためて問いなおされています。3年前の3月11日に発生した「東日本大震災」は、マグニチュード9という大地震、それに伴う巨大津波、そして福島第一原子力発電所の事故と、まさに人知を超えた未曾有の災害となりました。東日本大震災から3年過ぎた今でも、まだまだ多くの人々がつらい避難生活を送っています。一刻も早い復興を願わずにいられません。

一方で、この災害は、私たちに新たな社会の方向性を示してくれるものでもありました。今回の災害のなかで、私たち日本人の多くが、自分たちの力を蓄えるだけでなく、「人のために何かをしたい」と考えるようになりました。同時に、多くの国や地域から支援を受け、

日本が国際社会の一員であることが強く印象付けられました。震災後、「絆」ということがよく言われるようになりましたが、皆さんがこれから生きていく新たな社会では、人と人との絆、すなわち「共生」が重要な役割を果たすことを示しているものです。

そして、時代の変化を超えて、人間として自信をもって人生をおくるためには経済的・社会的な「自立」ということが最も重要なことではないかと思われます。その意味では、大学の教育は、単なる学問的な勉強だけではなく、時代の変化に対応できる基礎学力、人間力、生活力を身につける場でなければならないと考えております。そのことが、社会に有為な人材を育成するという大学の、そして「自立と共生」を建学の精神に掲げる本学の大きな使命を果たすことでもあると思われます。

大学と高校では、生活が大きく変わります。大学に入ると大人としての扱いをうけるようになります。したがって、受け身ではなく積極的にみずから行動することが求められます。最初は授業など聴いていても、分からないことが多く、戸惑われることも多いと思います。しかし、カリキュラムは大学院で2年間、学部では4年間で組んであり、このあいだに体系的にいろいろな知識や考え方が身につくようになっていきます。ですから、1年生で分からないからといって心配することはありません。とりわけ学部に入学の皆さんには授業にまじめに出席し、レポートなどの課題をきちんとこなし、日々の勉強の努力と研鑽を続けることをお願いしたいと思います。本学では、成績評価なども、GPA(Grade Point Average)という国際基準を導入しており、勉学に力を入れないと進級や卒業も難しくなっています。

さらに本学では、「教育力日本一の大学をめざして」という目標のもと、学生の皆さんが学習成果を出せるようにさまざまな工夫をしております。大学にはすでに実証済みの優れた学習システムが多くあり、成果も出ております。昨年度受けました大学基準協会の認証評価でも高い評価を受けております。また本学はここ数年、『東洋経済』や『週刊ダイヤモンド』誌などのランキングではもちろんのこと、NHKのニュース番組などでも取り上げられ、「面倒見の良い大学」として約650大学のうちトップクラスにランクされるようになっております。これは、数年にわたる教職員が一体となった努力の成果と、皆さんの先輩たちの頑張りの結果であると思います。もちろん、これに甘んじることなく、これからも日々改善・改革を続けていきたいと思っております。

さて、ここで、新入生の皆さんには、改めて2つお願いをしたいと思います。第一は、大学に入ってから、とにかく本を読んでもらいたいということです。興味のある分野であれば何の分野でもよいのですが、とくに古典と呼ばれているものがよいと思います。体系的に物事を考えることの源は、本を読むことから生まれます。もちろん映像は物事を理解しやすくしてくれますし、情報や知識を容易に得ることができるという利点があります。映像などを利用して物事を知ること重要ですが、もっと重要なのは論理的な思考方法を身につけることです。

第二は、何事に対しても、好奇心を持っていただきたい、ということです。高校時代には、いろいろな制約があり、自由には行動できなかったこともあるかもしれません。しかし、大学に入れば、自分の意志や考えで自由に行動することができます。クラスやサークル活動に積極的に参加して、生涯の友人を作ってほしいと思います。失敗を恐れず、何事にも挑戦してください。皆さんの要望にお応えできるように、本学ではカリキュラム以外

にも、留学、インターンシップ、ボランティア活動などいろいろなプログラムを用意しておりますので、大いに利用してください。

文京学院は本年10月23日に創立90周年を迎えます。新入生の皆さんは、本学の歴史において、輝かしい年に入学をされたわけです。新たな文京学院の歴史を築き上げるために、大いに力を発揮していただきたいと思います。

2024年の100周年に向かって、大学がいつそう発展するためのプログラムが始動しています。そのひとつが、皆さんの手元にあります入学式次第に示してあります「新・文明の旅プログラム」です。2012年には、第一陣の学生を、トルコ、ブルガリア、ルーマニアへ派遣し、現地で各国の大学生と交流しながら、それぞれの国の文化・社会を学び、また日本の文化・社会を発信してきました。今年度末には、第二回「新・文明の旅プログラム」として、ポーランド、リトアニア、ラトビアに学生を派遣します。のちに、ポーランド共和国の全権特命大使閣下から祝辞をいただくことになっています。このプログラムは、2024年の100周年まで続き、ユーラシアの様々な国を訪問します。ぜひ、このプログラムにも挑戦してほしいと思います。

また、昨年度から本学4学部を横断的に結ぶ形で、文京グローバル・キャリア・インスティテュート（文京GCI）もスタートしています。ここでは、グローバル英語、専門英語、異文化理解、そしてインターンシップによる実際の海外経験など総合的な学習によって、グローバルな社会で「自立と共生」を実現できる地球市民の養成を図っています。

新しい時代へ向かう変化への対応は大変重要ですが、一方で、大学で学ぶことへの思いは時代を超えて共通なのではないでしょうか。皆さんには本日入学のお祝いに、元学長の島田和幸先生が大変尊敬されていましたが、著名な教育者であります会津八一先生の「学規」をお配りしております。時折眺めて、自らを戒めていただきたいと思います。会津先生は、「深くこの生命を愛し、学芸を持って自らを高め、日々新たであるように」と、学生たちを励まされました。

大学時代というものは、人生のなかで最も素晴らしく有意義な時期であると思います。しかし、アツと言う間に過ぎてしまいます。大学での2年間あるいは4年間を通じ、日々の努力と研鑽を積むことによって、若い皆さんには多くのことが身につく、非常に大きな成果が生まれます。就職なども、この成果の1つとして得ることができるものです。決してその逆ではありません。2年後、4年後に、立派に成長された皆さんが本学から巣立つことを楽しみにしております。

それでは、皆さんが楽しく有意義な学生生活を送られ、学業を達成されることを心からお祈りして、私の告辞の結びとさせていただきます。

平成26年4月2日

文京学院大学
学長 川邊信雄